

ひろしまストリート陸上プラス開催!

今年も「定位置」での開催に感謝
やっぱり、この日この場所で、
皆さんの応援があつてのスト陸は気持ちがいいですね。



2025ひろしまフラワーフェスティバル
期間中の5月4日(日・祝)、平和記念公園
前の平和大通り特設会場で、「ひろしま
ストリート陸上プラス」を開催! 今年、中
国地方を中心に開催されるインターハ
イの広島県マスコットキャラクター「ひろ
しばけん」も駆けつけてくれました。(後
述)

青空のもと、昨年より少し過ごしやす
い運動日和。

おなじみのオリンピック3人が駆けつ
けてくださり、終始笑顔が絶えない開催
となりました。

恒例となった、広島の100m走タイム上
位の小学生男女(今年は男子6名、女子7
名)による予選の後、勝ち残った6年生男
子2名vs金井大旺選手(写真右)、6年生
女子2名vs高橋萌木子選手(写真上)の
50mガチレース。

今年も、オリンピックの本気?のレースに
会場が沸きました。金井選手の意地と高
橋選手の愛嬌が場を盛り上げてくれまし
た。

それにしても、小学生のレベルは上がる
一方ですね。

未来のオリンピックに期待も高まります。



“2025 ひろしまストリート陸上プラス”!

令和7年5月4日(日・祝)、通常の開催日程に戻って2回目の開催となりました。平穩で楽しいスト陸が今年も開催できることに感謝です。当たり前が当たり前ではないと気づいたここ数年。

さあ、今年もレギュラー陣(笑)と初陣選手が大活躍のスト陸プラスが始まるぞ!

晴天に恵まれ、湿度も抑え気味の良いお天気。とはいえGWは例年とても暑い。そんな中、会場には1万人を超える観客のみなさん。嬉しい限りです。今年もオリンピックトピアスリートの皆さんが会場を沸かせてくれました。



陸上競技からは、スト陸リーダーの広島市出身、木村文子さん(ロンドン、東京五輪女子110m障害)、昨年に続いて木村さんの友人代表、レギュラーの高橋萌木子さん(ロンドン五輪女子4×100mリレー)、こちらもレギュラー昇格の金井大旺さん(東京五輪男子110m障害:ミズノブランドアンバサダー)、今年の地元棒高跳び選手は、広島大学医学部5年「空飛ぶドクター」こと綾大心選手(写真左上)、広島大学教育学部2年「広大イケメンルーキー」こと土田涼大選手(写真右上)。

棒高跳びを間近で見ることは貴重です。大きな歓声はとても嬉しい! デモンストレーションは、この二人。中学1年の渡部未蒼さん(写真左下)と県最年少ジャンパー小学6年の水本康太(写真右下)さん。輝いてる〜。



司会は、RCC長谷川アナとフリーの突撃専門大本アナ。名コンビの進行で開幕です。これに的確かつユーモアあふれる木村文子さんの解説が入ると、楽しさ倍増です。

棒高跳びに続いては、今年の新物。スト陸の「プラス」部分。スポーツチャンバラの登場です。皆さんはご存じでしょうか。チャンバラもピンと来ない若い方も多いでしょうが、エアソフト剣でほぼ体の全部分を打ち合うスポーツです。レクリエーションとしても、リハビリとしても活用されているそうです。

広島県では、唯一クラブ活動をされている広島なぎさ中学校・高等学校の皆さんの協力のもと、楽しいひと時に幼児から大人まで、ドはまりした方もあったようですね。

続いてこれまた恒例、県内100m走ランキング上位の小学生による50mスプリント。今年はどうな走りが見られたかな。



未来を、 こしょう!

私たちに、預けているビジョンがあります。
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献していきます。
これからの時代のニーズに合わせて進化し続けるながら、
みなさまとともに歩んでいきます。



屋内電気工事

空調管工事

情報通信工事

配電線工事

送変電地中線工事

リニューアル工事

エネルギー関連工事

環境関連工事



中電工

CHUDENKO

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
www.chudenko.co.jp



熱い戦いに続いてオリンピック3人によるデモンストレーションと陸上教室です。金井さんのハードルを間近で見た子供たちの反応は？

あんなに高いハードルを越え、スピードに乗って突き進む姿に驚きと拍手が沸き起こります。

続いて行われた体験会も大盛況！スポーツ好きの輪がどんどん広がりますように。



今年のインターハイ。広島県では7競技8種目が開催されます。人が集まる場所ならどこにでも駆け付けてくれる人気のマスコット、ひろしばけんも、PRとスト陸の盛り上げに一役買って出てくれました。



広島県では57年ぶりの総合開会式の開催。(県内での競技は次のとおり)

広島市:陸上競技、水泳(競泳)、剣道

福山市:水泳(飛込)、ローイング、少林寺拳法

福山市・尾道市:テニス

安芸太田町:登山

7月23日(水)から8月20日(水)にかけて熱戦が繰り広げられます。



スポーツと触れ合う機会がちょっと多い広島県。スポーツを好きになってもらいたい思いでスト陸を続けます。

オリンピックからいただいたことばスト陸は楽しいと思えるもの。是非参加して。広島の子供たちのレベルの高さに驚き。でも悔しいと思うことも味わって進化してほしい。近くで見てスピード感を味わってほしい。ハードルをやりたいと思ってほしいな。スポーツが好きな子も嫌いな子もいるけど、こんな機会をとらえて、夢中になってみてもらいたいな。

参加してくれた小学生の皆さん、選手の皆さん、役員・スタッフの皆さん、そして多くの子供たちをはじめとして暑い中見に来てくださった観客の皆様、今年もどうもありがとうございました。

また来年も、スポーツ好きにもっともっと集まってもらえるよう頑張ります。是非またお会いいたしましょう！

2025スポーツフェスタ開催



広島が誇るトップアスリートと幼児・小学生がふれあい、スポーツの楽しさを体感できる「スポーツフェスタ」が、7月5日(土)、広島県立総合体育館で開催されました。県内を拠点とするプロ、アマのトップチーム(トップス広島)所属の選手と子供たちが、スポーツを体験し交流するイベントに425家族、1,400名を超える親子連れが参加してくださいました。親子体操やスポーツ体験などに笑顔あふれる姿が光りました。

広島県スポーツ協会、広島市スポーツ協会、トップス広島の三者共催で、昨年同様7月の開催となりました。今年は、参加をしてくれる子供たちに少しでも多くの体験をしてもらうようにと、昨年の反省を踏まえ700組から500組の募集に変更して臨みました。

12時受付前から参加者が多く来られ、時間を早めて会場にご案内。切れ目なく参加者が集まります。

運営もアクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)と、スポーツ体験を同時進行にし、幼児の遊び場も設置することで、待機時間を少なくするなどの変更を行いました。



13時の開会式前に、今年開催のインターハイの広島県高校生活動推進委員とマスコットキャラクター「ひろしばけん」が登場し、大会のPRをしました。ひろしばけんの、もこもこした動きに子供たちも大喜びでした。

続いて、本日のプログラム(ACP、スポーツ体験)を実施してくださいの皆さんの紹介。

ここではスライリーの乱入(笑)参加もあってさらに盛り上がります。いっつもながら愛嬌たっぷり、動きもすごい! 軽快!

さあ、いよいよフェスタの始まりです。

広島県スポーツ協会の荻田知英会長から、広島はレベルの高い多くのスポーツを観る・触れ合う機会に恵まれている。本日はその選手たちとスポーツ体験にチャレンジし、スポーツを大好きになってほしいと、未来のアスリートに激励のメッセージが贈られました。



それでは、スポーツ体験前半とACPの始まり始まり。スポーツ体験前半は、ソフトテニス、バスケットボール、サッカー、ローイング(前半後半とも)の体験です。どのコーナーも長蛇の列の大人気ぶり。

ソフトテニスは、世界一を何度も獲得しているNTT西日本ブルーグラントの監督、選手2名から教わります。初めてラケットを握り、ボールを持つのも初めてのお子さんもおられ、丁寧な指導が光ります。興味を持ってくれると嬉しいです。

バスケットボールは、広島ドラゴンフライズからスクールコーチのお二人。昨年のBリーグに続いて今年3月も東アジアスーパーリーグ2024-25の優勝と勢いに乗るドラフラ。バスケ人気がどんどん高まっています。子供たちも真剣そのもの。

サッカーは、サンフレッチェ広島から森崎浩司アンバサダー。

コーンをかわして難しいドリブル。コントロールが定まりにくいボウリング。真剣にチャレンジする子供たちに拍手。

森崎アンバサダーは終了後、中国ダービーのため岡山へ。みんなでお見送り。



ロビーでは、前半後半とも、広島県ローイング協会役員、県立宮島工業高校ボート部の皆さんによるローイングのエルゴマシンの使った模擬レース。子供たちは汗をかきながら、正面の画面でレース展開を確認しながら、ゴールを目指します。勝った負けたの大騒ぎです。



続いて、スポーツ体験後半へ。バレーボール、ハンドボール、陸上競技が始まります。

バレーボールは、広島サンダースから選手4名。パス、トス、スパイクの基本動作に子供たちの目は釘付け。子供たちはスパイクが好きみたい。大きな選手に負けない動きの子も。将来が楽しみです。



陸上競技は、中国電力陸上競技部から選手・コーチ等の4名の皆さん。走ることはどんなスポーツでも基本となる動作とお話もありました。それを極めると、選手のようにとんでもなく速くなりますね!大事な基礎を楽しそうに教わっていました。

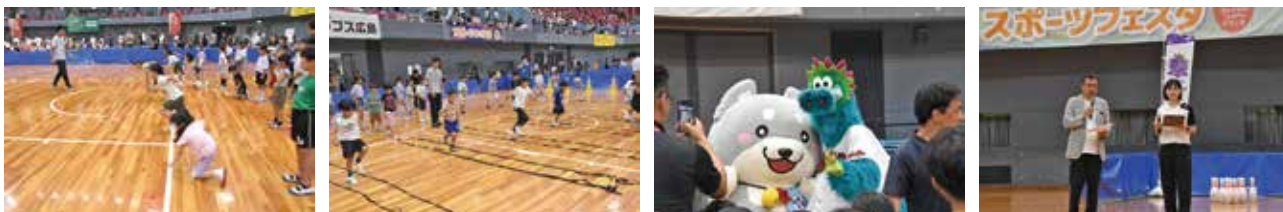


今年のACPは、スポーツ体験と同時進行。親子で楽しく体操を行った後は、遊び場に様変わり。神田アナと田山アナ、広島経済大学興道館「スポーツ推進プロジェクト」の学生さんも加わり、笑顔にあふれた場が進みます。

横山有里先生の指導のもと、親子みんなが真剣かつ笑いの中に。遊び場でも親子が一緒になって玉入れや飛び箱などで身体を動かしてくれました。



ハンドボールは、イズミメイプルレッズ広島の選手4名。機敏な動きととにかく明るい選手たちに混ざって子供たちも満面の笑み。シュートが決まるとみんなで騒いで大喜び!でした。



スポーツ体験が終了すると、ゲストアスリートパフォーマンスの始まりです。イズミメイプルレッズ広島、NTT西日本ブルーグランツ、広島サンダースの選手による華麗で豪快なパフォーマンスに観客一同、おーっ!の嵐が吹き起こりました。



3時間にわたって繰り広げられた数々のスポーツ体験。最後はありがとうございました!の大きな声が響き渡り感無量でした。ご参加いただいた主役のお子様も保護者の方も楽しんでいただけたならこんなに嬉しいことはありません。また来年も是非お会いしたいと思います。

トップス広島、競技団体、ACP講師の皆さま、大学生・高校生の皆さま、いつも盛り上げてくださるアナウンサーのお二人、運営スタッフの皆さん、全ての力が揃って初めて成り立つこのスポーツフェスタです。また来年もどうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

「スーパージュニア選手育成プログラム2024」 特別プログラム(東京遠征研修)

「スーパージュニア選手育成プログラム2024-体験プログラム-」に参加した選手が、日本代表選手の合宿・練習施設等の視察研修を通して、将来のスポーツ活動の目標を決める参考となり、国民スポーツ大会の広島県代表やオリンピック出場を目指すアスリートに育つことを期待して、令和7年3月22日(土)から23日(日)の1泊2日の日程で特別プログラムを実施しました。

今回は、6回の体験プログラムとファイナルトライアルに参加した6年生男女7名とその保護者が参加しました。3月22日(土)、朝8時45分に広島駅に集合し、東京へ向けて出発です。計7回のプログラムを経験した仲間同士、新幹線の中では話が弾んでいました。



東京駅到着後、早速、国立競技場に向かいました。

国立競技場スタジアムツアーに参加し、トラックに足を踏み入れると、世界で活躍する選手たちと同じ場所に立っていることにジュニア選手たちは目を輝かせていました。残念ながら、実際にトラックを走ることはできませんでしたが、将来、国立競技場の舞台で活躍する姿をリアルに想像することができたのではないのでしょうか。

他にも、選手ロッカールームを見学したり、オリンピック表彰台に立ったりと、通常ではなかなかできない体験を楽しんでいました。

3月23日(日)、味の素ナショナルトレーニングセンターに向かいました。今回見学した施設は、屋内トレーニングセンター・イースト(東館)でした。水泳、卓球、フェンシング、アーチェリー、ライフル射撃など、日本代表選手などが合宿・練習する各競技施設を見学しました。実際に代表選手が練習中の施設を見ることもできました。

また、速さや高さを体感できるゾーンもあり、世界最速のウサイン・ボルト選手と同じ速さで動く光と競争して、負けてしまったジュニア選手はあまりの速さに驚きながら、悔しそうにしていました。

さらに、パラリンピックの公式競技でもあるゴールボールの練習風景を見学することができました。ゴールボールは、視覚障害がある方が外が全く見えないゴーグルを着けて、鈴が入っているボールを投げ合い、得点を競う競技ですが、視界が全て遮られているにもかかわらず、ボールの位置を正確に把握して、ボールがゴールに入るのを防いでいる姿に「おおっ!」という声が上がります。その後、ジュニア選手たちも、実際にゴーグルを付けて、ボールを止める体験をさせてもらいましたが、思った以上に真っ暗な視界に、ジュニア選手たちは驚いており、「全然分からない!」と言って、ジュニア選手たちの横をボールがすり抜けていきます。実際に体験することで、簡単にボールを止めていた選手たちがトップアスリートであることを、より感じていました。

また、ポッチャ体験や、ライフル射撃の銃弾の入っていない銃を持ったりと、ジュニア選手たちは終始興味深そうに、楽しそうに見学をして、東京遠征研修を終えました。



この春から、参加した子供たちは中学生になりました。今回の貴重な経験を活かし、今後のアスリートとしての成長、また人間としての成長を期待したいと思います。

「スーパージュニア選手育成プログラム2025」 トライアル

今年も5月17日(土)、18日(日)に広島会場、5月25日(日)に福山会場でスーパージュニア選手育成プログラムのトライアルを開催しました。

このトライアルで選考された約50名が、1年間を通してさまざまなスポーツを体験する「スーパージュニア選手育成プログラム」に参加することができます。

今年のトライアルには、県内の小学4・5・6年生約330名ととてもたくさんの小学生たちが応募をしてくれ、県内各地の小学校から参加者が集まりました。学校での体力テストとは違い、周りは知らない子ばかりで受付の時には緊張気味の参加者もありましたが、全員ベストを尽くして頑張っていました！



開会行事では、主催者を代表して公益財団法人広島県スポーツ協会堂本ひさ美強化副委員長からあいさつがありました。堂本副委員長がトライアル参加者に「自分から参加したいと思って来てくれた人も、周りの人に勧められて来てくれた人も、今日こうやってチャレンジしてくれることはとても大切なこと。トライアルでの結果が良くても悪くても、これから色々なことにチャレンジしてほしい。今日は思いきり力を出して頑張ってください。」と激励し、開会行事は終了しました。

準備運動が終わったら、いよいよ測定開始です。観客席の保護者の方も、客席の前の方に集まり、カメラを構え真剣な表情で見守ります。

測定種目は、上体起こし・40m走・長座体前屈・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・20mシャトルランの6種目です。

学校でも行ったことがある測定が多いので、測定が終わるたび参加者からは「学校ではもっと…」「学校よりも今日の方が…」と様々な声が聞こえます。泣いても笑っても今日の測定で選考結果が決まってしまうので、参加者たちはみんな一生懸命取り組みます。

ソフトボール投げ・20mシャトルランの測定では、毎年良い記録が出ると会場は大盛り上がりです。

今年も体育館の壁に勢いよく当たる遠投があると、参加者・保護者・スタッフからは歓声があがり、参加者同士、好記録を出した子へ拍手する姿も見られました。投げ方のコツを教え合う姿もあり、ライバル同士でありながらも、一緒に頑張る友達同士の姿は、とても素敵な光景でした。

また、シャトルランの測定では、100回を超える選手もいて、自分自身に追い込みをかけ、最後まで必死に走る姿には、全ての日程で会場全体から拍手が起こりました。

今回のトライアルの選考は既に終了し、選考結果は各選手の記録とともに、参加者全員に通知を行いました。体験プログラムは、7月から始まり、計8回のプログラムが実施される予定です。

今回合格になった人は、体験プログラムを通して、自分が好きだと思えたり、得意だと思える競技に出会ってもらえればうれしいです。

また、残念ながら合格ではなかった人も、今回のトライアルをきっかけにいろいろなスポーツに挑戦をしてほしいと思います。新たな発見をしたり、隠れた才能を見つけたりすることができるかもしれません。そしてまた来年のトライアルにも挑戦してほしいと思います。

最後に、今年もトライアルの測定にご協力をいただいたT&TWAMサポート株式会社のトレーナーの皆様、広島県小学生体育連盟の皆様、補助員としてお手伝いをいただいた広島修道大学、福山平成大学の学生の皆様に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



未来を、ひろげる。

私たちは、信頼される
〈地域総合サービスグループ〉として、
幅広いサービスを通じて、
地域社会と共に、未来をひろげます。

 ひろぎんホールディングス

／ 広島銀行 ／ ひろぎん証券 ／ しまなみ債権回収 ／ ひろぎんヒューマンリソース ／ ひろぎんキャピタルパートナーズ ／ ひろぎんリース
／ ひろぎんエリアデザイン ／ ひろぎんクレジットサービス ／ ひろぎんITソリューションズ ／ ひろぎんライフパートナーズ

(2025年7月1日現在) [2507] d

悲運の女性アスリート、22歳で夭折した大多よね

昭和初期、女子陸上界に大型新人が現れた。広島・江田島から上京するやいなや、円盤投げと砲丸投げ2種目で日本記録を打ち立てた大多よね。五輪代表も狙える逸材と称されながら病に倒れ、22歳の若さで短い競技人生を閉じてしまった。

早逝のヒロインは明治最後の年である1911年1月16日、安芸郡江田島村中郷(現江田島市江田島町中央)の開業医、大多隆夫の2女として誕生した。宮島へ家族旅行した3歳の時、だれの手も借りず一人で弥山頂上まで上って周囲を驚かせ、長じて江田島湾を遠泳するなどたくましい少女時代の逸話も残る。

大多の陸上成績が初めて新聞に載ったのは県立呉高等女学校(呉県女)在学中の1926年11月7日、広島高師での第6回県女子体育大会で砲丸投げ、バスケットボール投げ2種目に優勝している。翌年の第3回近県女子オリンピックも2種目を制覇した。当時、陸上の女子選手は人見絹枝が注目を集めていた。万能選手人見は1928年アムステルダム五輪女子800mで銀メダルを獲得し、日本の女性アスリートの象徴的存在であった。大多は人見の出身校、東京の日本女子体育専門学校(現日本女子体育大学)へ進学する。

身長172cmと大柄で、投てき種目に非凡な才を見せる大多は、女子体専2年の1929年4月、関東選手権(神宮)の円盤投げで26m25の日本記録をつくった。翌月には人見によって大きく塗り替えられたが、短期間とはいえ初めての日本記録ホルダーとなった。翌30年1月、陸連ルール改正によって女子砲丸投げの重量は8ポンド(3.63kg)から4kgに変更、統一された。直後の3月26日、東京都復興大会(同)で大多の投じた9m14が最初の日本記録として公認された。29年円盤、30年砲丸の投てき2種目で日本記録保持者に名を連ねた。

当時の大多は円盤投げを得意としていた。1929年は4月の日本記録(26m25)を10月の明治神宮大会関東予選で29m64に更新、11月の第5回明治神宮大会も28m66で優勝した。競技歴の浅い大多はまだノーターンで円盤を振り切っていた。伸びしろは大きかった。新生の登場に、「スローイングの第一人者」(1930年2月27日付読売新聞)とする好意的な記事が載った。

女子体専を卒業した大多は30年春に帰郷、県立広島高女(県女)の体育教師として赴任した。日本記録達成の直後ではあったが、さすがに教師1年目の競技記録は砲丸投げ以外に見当たらない。2年目となった1931年4月、関東選手権円盤投げを30m79と初の30m台で制し、11月の第6回明治神宮大会では32m45に伸ばした。自己ベストの会心の投てきではあったが、優勝したのは34m32と人見の記録をも上回る見事な日本新を投げた広島・山中高女の石津光恵だった。

大多の競技会成績はこの明治神宮大会が最後となった。自己最高記録を更新しながら地元の後輩に追い抜かれ、心中は穏やかではなかったろう。目標とし、あこがれていた先輩の人見はこの年8月、乾酪性肺炎のため24歳で息を引き取っていた。しかし、自らも体調のすぐれぬ日々が続いていた。1932年3月、県女教師の職を辞し、江田島の実家で療養生活を送った。

医師である父親の看護もむなしく、32年5月31日、大多は22歳4か月の短い生涯を閉じた。死因は腹膜炎だった。

廿日市市出身の石津は、大多の病死から約2か月後のロサンゼルス五輪円盤投げ7位の好成績を挙げ、1936年まで日本記録を保持し続けた。一方で、大多の日本新記録から半世紀後の1980年、学生の山中みどり(現姓原野、筑波大)は同じ円盤投げで51m82の日本新をマークした。大多から数えて9代目の記録保持者となった山中は、奇しくも呉県女の流れをくむ呉三津田高の後輩でもあった。

(敬称略)

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)



大多よねの投てき
(江田島市教委提供)



陸上競技部



ラグビー部



女子卓球部

スポーツのチカラを、地域のエネルギーに!



一日も、百年も。
中国電力